

播種時期の異なるダイズにおけるオオタバコガの発消長

○横堀 亜弥・小野 亨・大江 高穂

宮城県古川農業試験場

近年、宮城県のダイズにおいてオオタバコガによる葉や莢の食害が問題となっているが、ダイズにおける本種の発生実態は明らかにされていない。現地や試験場内のほ場で、晩生品種「ミヤギシロメ」の晩播（播種時期：6月下旬～7月上旬）で多発事例が散見されたことから、播種時期の異なるダイズにおける幼虫の発生密度の違いについて検討した。

調査は2017年に宮城県古川農業試験場内で行った。ミヤギシロメを6月7日、6月22日、7月7日に播種し、7～8月に各区100茎についてタバコガ類幼虫の見取り調査を行った。ただし、オオタバコガの幼虫は近縁のツメクサガと外部形態が似ており調査時の識別は困難であったため、タバコガ類幼虫として計数した。その結果、タバコガ類幼虫の発生は概ね7月中旬～8月下旬まで確認され、幼虫密度は播種時期に関わらず開花始期前後にピークとなり、播種時期が遅いほどピーク時の密度は高まった。また、調査時に番外から採集した幼虫を飼育し、羽化後に吉松（2001）に従って同定した。採集した161個体のうちオオタバコガは14個体、ツメクサガは71個体で、76個体は寄生蜂等により死亡したため同定に至らなかった。寄生蜂は *Camponotus chlorideae* (ヒメバチ科) と *Meteorus pulchricornis* (コマユバチ科) の2種が同定された。

以上のことから、ダイズの晩播においてタバコガ類幼虫の密度は高まると考えられた。しかし、2017年はオオタバコガが全体的に少発生であり、ツメクサガ主体の調査結果であったことから、オオタバコガの多発条件下における発消長を明らかにする必要がある。

Seasonal prevalence of *Helicoverpa armigera* on soybean sown on different dates.

Aya Yokobori, Tohru Ono, Takaho Oe

Miyagi Prefectural Furukawa Agricultural Experiment Station